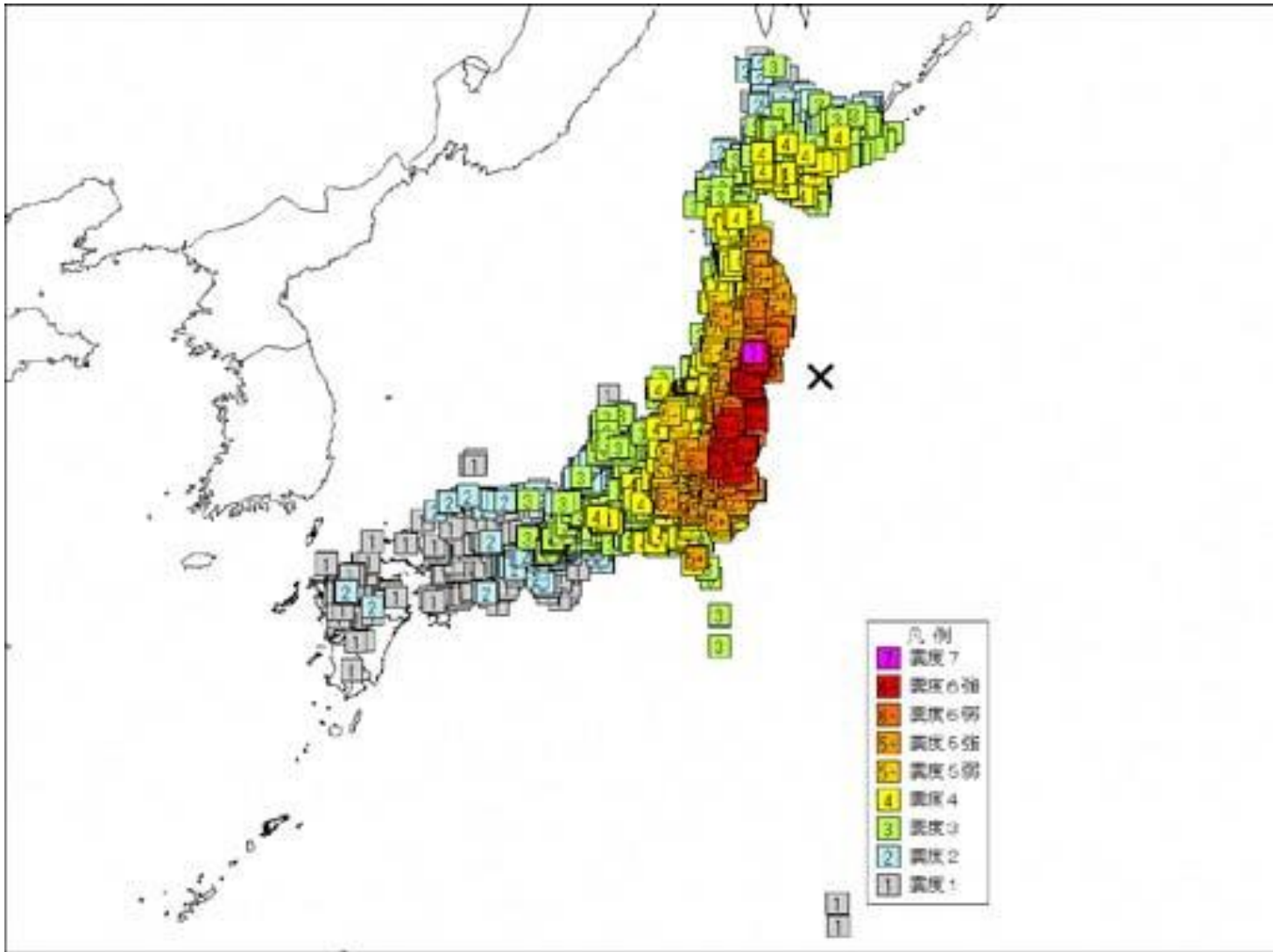
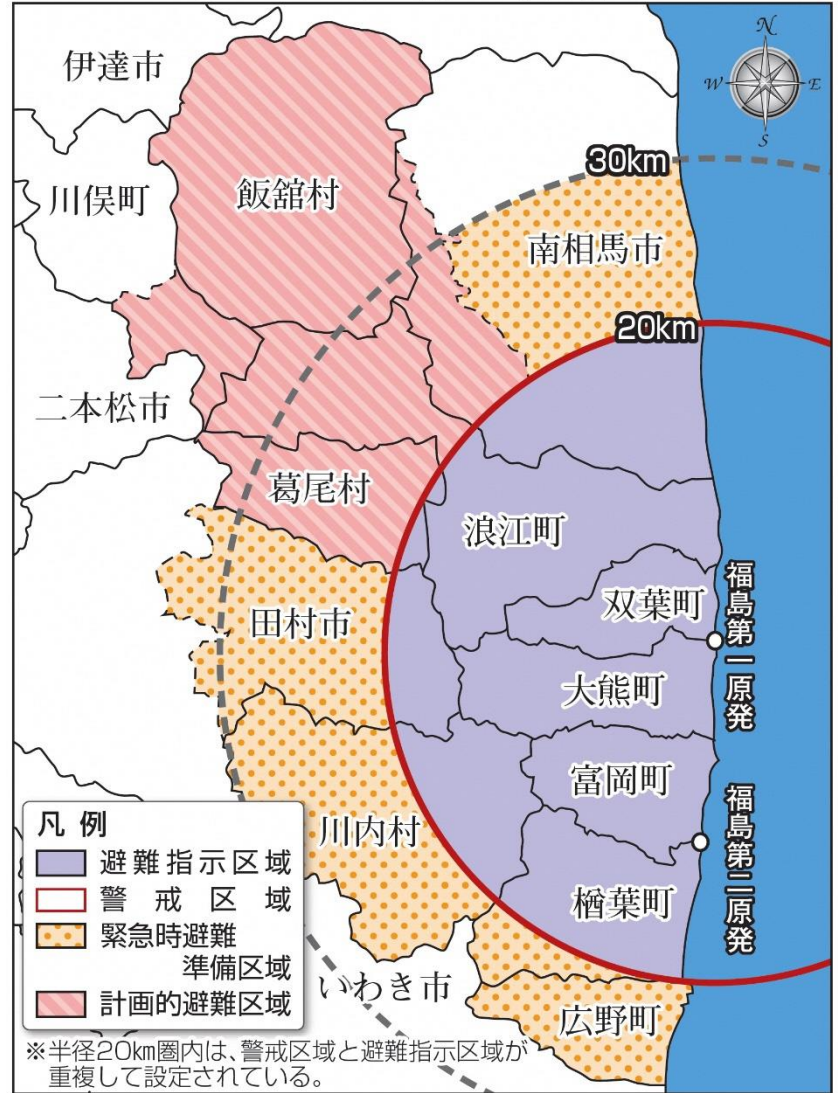


福島県における ピアサポート事業構築事業 ～大震災後の委託事業としての活動～

特定非営利活動法人がんピアネットふくしま
理事長 鈴木牧子



①2011年4月22日現在



福島民報社提供

2011. 3. 11から始まった苦悩と困惑

- ・地震による避難—3. 11夜から始まる
- ・放射能リークによる再避難
- ・浜通りの病院閉鎖



がんを考える「ひいらぎの会」を検索して相談電話が相次ぐ
(3. 12より始まり、ひとり1時間以上話す方も・・・患者本人、家族)

待ったなしの対応を今、しなければ・・・！誰が？

大震災後のがん患者の混乱

病院が閉鎖して、治療が
打ち切りになった！

検査で、がんだと確定された。
小学生の子を抱えるシングルマザー。
こんな被災の状況で、周りにも言えない。



避難先で、相談できる人も誰もいない。
がんの事など、とても話せる状況ではない・・・

鳴り止まぬ電話と、怒り・・・苦しみ・・・悲しみ・・・

2011年福島県がん対策推進協議会で申し出
がん相談支援センターに行きつけない患者・家族
はもちろんのこと、避難先で自分の居場所さえ把
握していない人たちをこのままにしておけない。
鈴木牧子が「がんピアサポートサロン」を全県に開
催していくために予算をつけてください!

2012年より準備開始—事務所の確保・事務員の雇
用ですぐにスタート

福島県内のがん患者会・関連団体によびかけ

がんを考える「ひいらぎの会」鈴木牧子代表世話人



公益社団法人 日本オストメイト協会
公益財団法人 がんの子どもを守る会福島支部
患者会 ピンクのリボン
認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会
特定非営利活動法人 福島県緩和ケア支援ネットワーク
福島県咽頭摘出者福祉団体「福声会」
雪うさぎ10西の会（造血幹細胞移植患者会）
生と死を考える福島の会
国立がん研究センターがん情報センター患者・市民パネル
がんを考える「ひいらぎの会」

2015年設立総会 同年NPO法人化

- ピアサポーター養成講座(いわき市で開催)第4回
- がん政策サミット参加
- リレーフォーライフ福島協力
- 福島県健康フェスタ参加
- がんナビゲーター講座紹介・参加
- 公開医療勉強会
- 設立総会(11月)
- 市民と共に「うたごえ喫茶」
- がん診療拠点病院へのあいさつ
- サロン開催可能地訪問

がんピアサポートサロン

令和5年度
県内12箇所開催

県中地区

- ・南東北病院「ほっと」
- ・郡山駅前がんピアサロン

会津地区

- ・会津医療センター「あいづ」
- ・会津市街（そよ風）
- ・奥会津・柳津（つきみが丘）

福島県を網羅
県内12常設会場

働くサバイバーの
「夕方サロン」

事務所健康麻雀



県北地区

- ・福島医大「ひかり」
- ・福島市街「まちなかがんこころカフェ」

相双地区

- ・南相馬市立病院

いわき地区

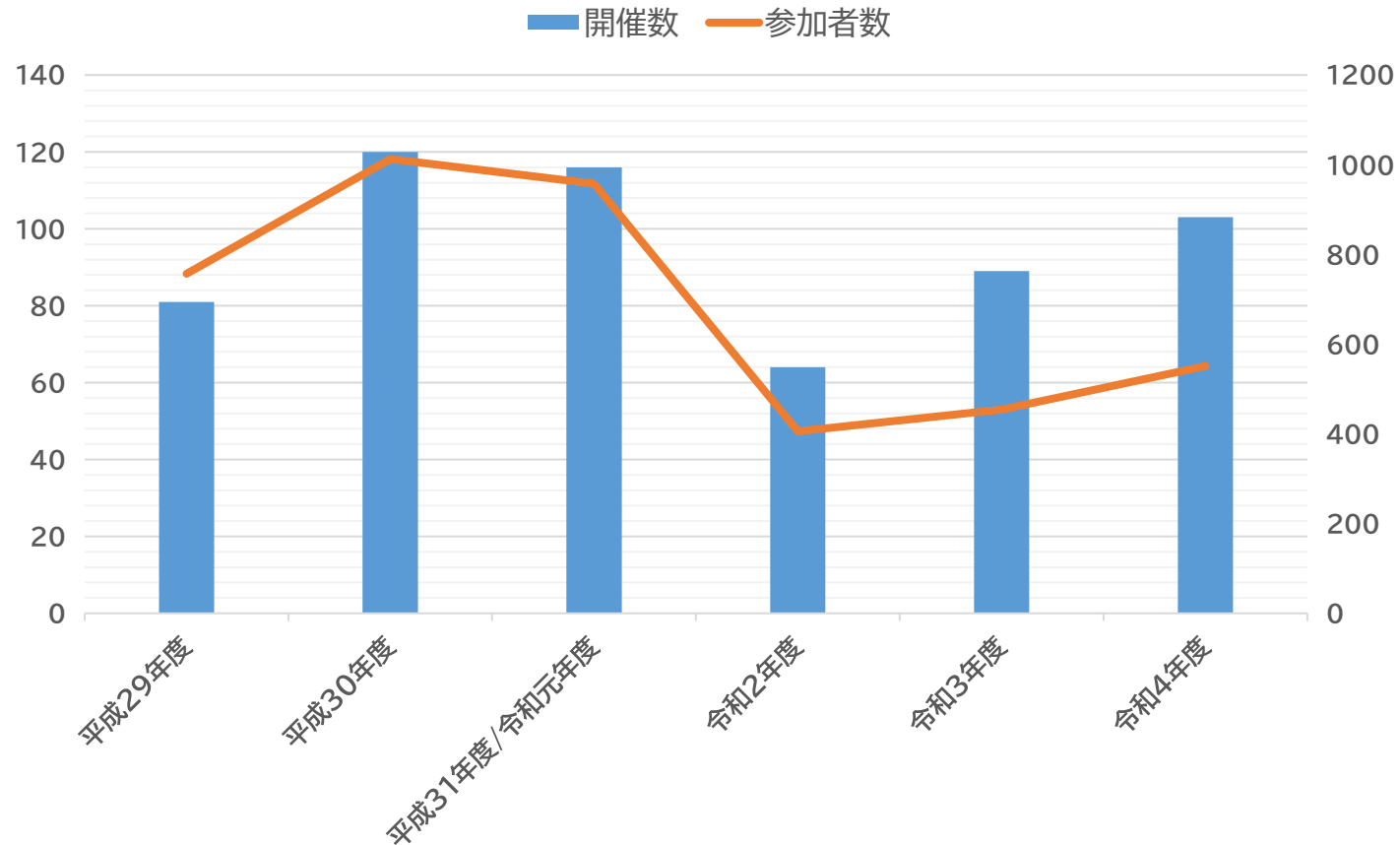
- ・いわき
福島労災病院「ふわり」

県南地区

- ・白河厚生総合病院「結い」
- ・白河まちなかサロン

過去6年間のサロン参加者数

過去6年のピアサポートサロンの開催数と参加者数の推移



	開催数	参加者数
平成29年度	81	757
平成30年度	120	1,013
平成31年度 /令和元年度	116	958
令和2年度	64	406
令和3年度	89	454
令和4年度	103	551

福島県がん対策推進審議会（旧協議会）

福島県がん対策推進審議会 委員名簿

【委員】

※R 4 審議会開催時

氏名	所属	職名
おおたけ とおる 大竹 徹	公立大学法人福島県立医科大学附属病院 福島県がん診療連携協議会	副病院長 委員長
きの ひでき 佐野 秀樹	公立大学法人福島県立医科大学附属病院小児腫瘍内科	部長
やまさき しげる 山崎 繁	福島県がん診療連携協議会 一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	副委員長 副院長
つばい えいやす 坪井 永保	一般社団法人福島県医師会 一般財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院	常任理事 理事長
みづら あさこ 三浦 浅子	公益社団法人福島県看護協会	
しまぬき えいじ 島貫 英二	一般社団法人福島県薬剤師会	副会長
さとう としえ 佐藤 利恵	一般社団法人福島県訪問看護連絡協議会	理事
ねもと のぞみ 根本 望	福島県医療ソーシャルワーカー協会	理事
たなか よしあき 田中 嘉章	一般社団法人福島県介護支援専門員協会	理事
すずき まきこ 鈴木 牧子	特定非営利活動法人がんピアネットふくしま	理事長
おおうち なおみ 大内 直美	患者会ピンクのリボン	理事
やすむら せいじ 安村 誠司	公立大学法人福島県立医科大学公衆衛生学講座	教授
なかむら しゅうじ 中村 修二	公益財団法人福島県保健衛生協会	副会長
いがらし みのる 五十嵐 稔	公益社団法人福島県歯科医師会	専務理事
やまうち たかし 山内 崇史	福島県弁護士会	

担当 福島県保健福祉部（地域医療課・健康づくり推進課）

医師（がん診療連携協議会・小児がん専門医・県医師会・公衆衛生）

看護師（協会）

訪問看護

薬剤師

ソーシャルワーカー

介護支援専門員協会

患者団体協議会

患者会代表

保健衛生協会（対がん協会福島支部）

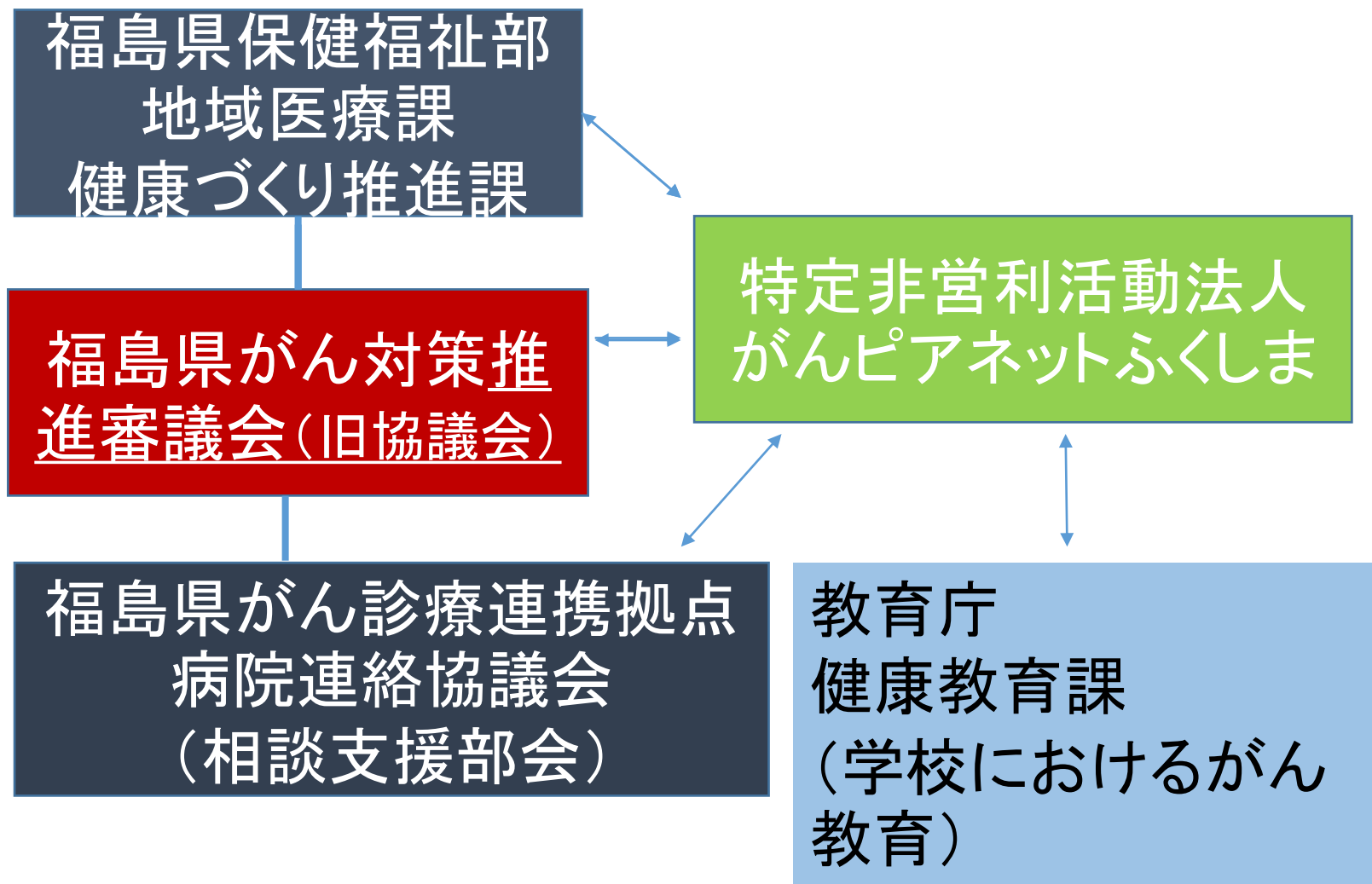
歯科医師会

弁護士

第3期がん対策推進計画パブリックコメント より多くの事が進捗している

- 多くの県民の声に対して回答
- がん教育の本格的始動(教育庁主体で協同)
- がん登録について専門の委員会設立
- 県内における地域格差(在宅医療)を共有
- がん診療連携拠点病院3か所喪失によるその後の県としての対応
- AYA世代在宅緩和への支援開始(都市部)
- アピアランスケア(ウィッグ・補助乳房)への助成金
- 多職種との顔の見える関係構築・連携

ネットワーク・パートナーシップ



- ・2013年からの県からの委託事業「ピアサポーター構築事業」を拡大(県内がん患者会・関連団体と協議)
- ・がんピアサロン サポーター育成 現場での実践
- ・拠点病院「緩和ケア研修会」におけるオブザーバー配置3名
- ・「緩和ケア研修会」患者講師
- ・福島医大臨床腫瘍学講座非常勤講師
- ・アドボケート講師としての派遣
- ・学術集会参加と還元
- ・他県からの要請と協力

患者市民参画推進にあたって都道府県協議会における課題

- ▶ 公平に意見を言える立場の患者委員が必要(対することではなく一緒にできること)
- ▶ 担当部署では人事で係が変わるので公平性をもった機関を設置することが望ましい
- ▶ これまで積み上げてきた議論を理解すること、そこに至った経緯を知ることが必要
- ▶ 新しい課題に対して建設的に取り組むための議論をきちんとマネジメントする
- ▶ 協議会では様々な立場からの意見を共有して精査できる知識を生んでいくことが大事
- ▶ 持続可能な活動に関してはきちんと予算化していく
- ▶ **がん患者・家族そして国民のため** という認識を忘れない事